

全国の教会で慰労と復興の“聖霊役事”

「天一国特別世界巡回師」が日本巡回を完了

天宙聖和5周年までの「120日特別路程」（5月10日～9月6日）の勝利のため、日本の全食口が最後の40日間を決意して歩む中、真のお母様の強い願いを受けて来日した「天一国特別世界巡回師」が21日間（7月22日～8月11日）の日本巡回を完了しました。家庭連合の草創期から真の父母様に侍ってきた世界巡回師たちは、“父母の心情”をたずさえて全国各地の教会を訪れ、実体聖霊であられる真のお母様を代身して、日本中に慰労と平安、幸福をもたらす聖霊の役事を引き起こしました。

サクワンギ先生を団長とする世界巡回師8人は7月20日に東京に到着。2日間の研修会を通して日本家庭連合の現状報告を受けた後、21日夕から24日午前にかけて、第5地区（東京）の8教区25教会を手分けして巡回しました。休む間もなく24日午後からは、第4地区（南関東）に移動し、26日まで神奈川、千葉、山梨の5教区24教会を巡回。真のお母様から託された願いを果たすため、昼夜を分かたず愛と誠を投入しました。

7月27日以降は、世界巡回師8人が全国の8つの地区（第1、2、3、6、7、9、10、11の各地区）に分かれ、8月7日までの12日間、一人が一つの地区を担当。長距離を数時間かけて移動しながら、連日1～2回の特別集会をこなしました。最後は、8人全員が第8地区（近畿）に集結し、地区内にある9教区を手分けして巡回した後、11日午前に南大阪教区大阪家庭教会で特別集会が行われ、全日程を終了しました。

“真の父母様は一体”

各地の特別集会に参加した食口からは、世界巡回師を送って下さった真のお母様への深い感謝と共に、真の父母様の位相と価値を再認識することができたという感想が多く寄せられました。

「柳鐘寛巡回師の背後に真の父母様の香りを強く感じました。巡回師を通して、真のお母様が食口一人ひとりを愛して下さっていることを感じ、とても感謝でした。講話を通して改めて、真の父母様の偉大さと価値を確認することができました。いま真の父母様と同じ時代圏に生きていることがどれほど恵みであるかと感動しました」（北長野教区 牧会者）



①史光基先生 ②趙萬雄先生 ③許燿先生 ④宋榮湜先生
⑤金明大先生 ⑥文平来先生 ⑦柳鐘寛先生 ⑧金興泰先生
⑨8月2日、鳥取教区鳥取家庭教会 ⑩7月31日、島根教区浜田家庭教会
⑪8月6日、北愛知教区名城家庭教会 ⑫8月3日、東愛知教区豊橋家庭教会 ⑬7月25日、南千葉教区市原家庭教会



また、「真の父母様は一体」であることを改めて確信したという声も多くありました。

「一番大きな感動は、真のお母様は真のお父様と完全に一つになっておられることを確信することができたことです。真のお母様こそ、真のお父様の夢を果たそうと『中断なき前進』をしておられ、堂々と自らを証しし、74億人類の母として果たすべき責任を全うするために歩まれていることに感謝の思いが溢れました」（宮城教区 牧会者）

祝福二世たちも、世界巡回師を通して大きな恩恵を受けています。

「私は祝福二世ですが、真のお父様にお会いしたことがなく、お父様と共に摂理を歩んでこられた先輩家庭からしか、お父様の証しや偉業を聴くことが

できません。ただ、私たち二世は今、真のお母様にとっても愛されています。お母様の愛を通して、お父様の愛を直接感じるができます。それはお母様がお父様と一体であられることを証するものであり、それを改めて感じる事ができた時間でした」（西神奈川教区 祝福二世）

日本食口の忠誠心に感化

一方の世界巡回師たちも、今回の日本巡回を通して大きな恩恵を受けたと異口同音に語っています。

2013年1月まで約4年間、「全国祝福家庭総連合会」総会長を務めた宋榮湜先生は「4年6カ月ぶりに日本にやって来て、最初は食口たちに恵みを与えようと考えていました。しかし、日本の食口

たちの天に対する変わらぬ忠誠心を目の当たりにして、私の方が恵みを受けました」と吐露しました。

また、第7地区（東海）などを担当した文平来先生は「み旨の前に精誠を尽くす日本の食口たちを見て、自分自身が復活して新しく生まれ変わったように感じました。古い韓国の先輩家庭は、自分たちの復活のためにも、日本に来て生まれ変わらなければならないと思います」と述べています。

真のお母様を送ってくださった世界巡回師を通して、日本全国の食口たちは、真の父母様に対する絶対信仰を揺るぎないものにすると同時に、お母様が世界的に進めておられる摂理の方向性を再確認。VISION2020の勝利に対する自信と確信を深めながら、決意を新たに再出発していきました。

父母の心情で“最後の一人まで”祝福に導こう

二世圏祝福推進のための全国責任者ネット会議



①インターネット会議の様子
②宋総会長（左）と徳野会長
③大分教区の「家庭青年勉強会」



天宙聖和 5 周年に向けた「120 日特別路程」の 80 日目にあたる 7 月 28 日、「二世圏祝福推進のための全国責任者インターネット会議」が東京・渋谷の松濤本部を中心に全国各地の教会を結んで行われ、全国の牧会者、婦人代表のほか、家庭教育部長などの二世圏祝福の担当者が参加し、心を一つにして最後の 40 日路程を出発しました。

会議では、まず徳野英治会長が挨拶し、「韓国・清平で行われる天宙聖和 5 周年の記念行事の中で、真のお母様が最も刺激を受け、未来への希望を感じられるのが、9 月 7 日に行われる『天地人真の父母天宙祝福式』です。二世圏祝福の候補者 3000 人の目標達成を最後まで目指しながら、一人でも多くの二世圏の候補者が韓国の本式典に参加できるよう全力を尽くしてください」と呼び掛けました。

続いて、田中富広副会長は『「今から交流を始めても 9 月の祝福式には間に合わない」と思う向きもあるかもしれませんが、2020 年の二世圏祝福 2 万名を見据え、既に来年の目標に向けた私たちの戦いはスタートしています。子供たちは時が大事です。彼らの心が動いているチャンスを見逃さず、交流決定を含めて進めてください」と述べました。

次に、家庭教育局の阿部美樹局長と桜井正上副局長が「二世圏祝福の取り組みと展望」と題して、①二世圏祝

福推進の概要②マッチングに対する取り組み③年上層に対する取り組み④約婚者に対する取り組み——について報告を行いました。

その中で、現場からも具体的な取り組みが紹介されました。大分教区の河原馨教区長は、二世圏祝福推進のための組織体制の整備をはじめ、「家庭青年」の教育、二世圏・青年祝福推進会議の開催などの取り組みを報告。

また、南東京教区希苑家庭教会の軽部将史教会長は、教会から足が遠のいている 25 歳以上の祝福二世の男性を対象に、祝福参加から教会定着にまで導く取り組みについて説明しました。（4 面に関連記事）

最後に、宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長が「強く雄々しくあろう！」と題してメッセージを語り、「今回の 120 日特別路程で最も重要な目標は、まさに青年・二世圏 3000 名の祝福勝利です。残された 40 日間は、走っている馬に鞭を加えるように精誠を尽くしていかなければなりません」と強調。その上で、①約婚者 1500 人の教育の徹底②交流中の 700 人への投入③出会い・交流の場の設置④祝福式後のプログラムの準備——などの必要性を指摘しながら、「最後の一人まで」祝福に導くことができるよう精誠を投入してほしいと訴えました。

会議は、徳野会長が最後に祝福を行い、参加者全体が決意を新たにしながら終了しました。

すべての祝福二世を祝福結婚を通して幸福に

“年上層” 祝福推進の取り組み

南東京教区 希苑家庭教会 教会長 軽部将史

二世圏祝福の最大の課題は、25 歳以上（年上層）の祝福二世の男性候補者（特に社会人）が女性に比べて圧倒的に少ないことです。

希苑家庭教会は 2016 年 4 月から毎月 1 回、日曜礼拝の後に 25 歳以上の祝福二世に参加者を限定した勉強会「一人を祝福に導く勉強会」を行ってきました。これまで毎回 10 ～ 15 人が参加し、その勉強会に関わった 10 人の年上層の男性の約婚が決まり、原理受講などをしながら今回の祝福式に向けて準備をしています。この取り組みについて紹介します。

なぜ男性候補者が少ないのか

祝福二世の社会人男性が教会に来なくなり、祝福（結婚）を希望しないようになる原因について、勉強会の参加者にヒアリングしたところ、①仕事が忙しくて祝福について考える余裕がない② 20 代はやりたいことに集中したい③親子関係が悪いので親からの祝福の誘いは拒絶する④社会の誘惑に負けた“負債”のため教会に行けない⑤転勤して教会が変わると知り合いがいなくなる（親しい仲間がいなくなる）——などの理由が挙がりました。

一般社会で成功を目指す「社会志向」の祝福二世は、全体の 30%程度いると推定されます。彼らは、社会でもまれて人格は立派であり、何らかのきっかけで価値観さえ転換されれば、立派な二世祝福家庭となっていく可能性は高いのです。祝福二世の男性候補者を増やしていくには、このカテゴリーの二世たちがポイントになってくると考えます。

男性候補者が前向きになるきっかけ

日本人の初婚年齢は現在、男女とも 30 歳前後です。会社でもそのくらいの年齢になると結婚する人が多くなるので、教会から足が遠のいている祝福二世の男性たちも、結婚について真剣に考えるようになります。「祝福二世」という自覚のある彼らが、「祝福結婚がいいのか、社会結婚がいいのか」と考えるこの時期は、彼らが祝福に向けて前向きになるチャンスなのです。

そんな中、結婚や祝福について気軽に話し合えるコミュニティ（受け皿）があれば、彼らが教会につながる可能性が高まります。また、両親からの祝福の誘いは拒

絶したとしても、親しい二世やかつてお世話になった先輩二世からの働きかけには、一度は応えてくれる可能性が高いと言えます。実際、「勉強会」に参加する二世のほとんどが、先輩二世からの誘いとなっています。

「そろそろ結婚しようか」と考えたとしても、今さら自分から教会に行くことはできず、親からも腫れ物に触るような扱いを受けている祝福二世の男性たちを念頭に始めてしまったのが、希苑家庭教会の「一人を祝福に導く勉強会」です。ポイントは継続することで、参加人数が少なくても、毎月 1 回必ず行っています。

4 月 30 日の勉強会には、祝福二世の男性 9 人（25 歳以上が 8 人）が参加。桜井正上・家庭教育局副局長のプレゼンテーションと二世先輩家庭の証しの後、勉強会のメインであるフリーディスカッションを行いました。

ディスカッションでは、「祝福とは何か」「祝福と結婚は何が違うのか」といったテーマについて、二世先輩家庭やスタッフを交えて率直に意見交換を行います。午後 2 時から始まった今回の勉強会は、終了予定の 4 時になっても誰も帰ることなく、6 時までノンストップで話し合いが続けました。

最後の一人まで祝福へ

勉強会の最大の目的は、単に年上層の男性候補者を立てることではなく、教会から遠ざかっていた祝福二世を教会定着に導くことです。最低でも月 1 回以上の礼拝参加と 11 条献金を実践するところまで教育していくことが必要です。

すべての祝福二世が祝福を通じて幸せになってほしい——。先輩二世の後輩二世に対する強い思いからこの勉強会が始まりました。宋龍天総会長が言われるように、最後の一人まで祝福に導き、彼らが幸せになるまで責任を持っていくという心情で、これからもこの取り組みを継続していきたいと思っています。



勉強会で行うディスカッション

“為に生きる”精神を掲げ、実質的教会成長を目指す

岩手教区の地域・家庭集会の取り組み

岩手教区 教区長 ^{カンミン} 姜 啟求

岩手教区（盛岡、盛岡南、花巻、一関各家庭教会）の
宇宙聖和 5 周年までの「120 日特別路程」における実
質的教会成長の取り組みについて、地域・家庭集会の模
範的な事例を中心に紹介します。

岩手教区では今年 6 月、地域・家庭集会（参加者 4
人以上）を 179 回開催し、延べ参加人数は 768 人、そ
のうち新規・再復帰のゲストは 157 人でした。集会の
平均参加人数は、6 月度は 4.3 人で、4 月度（2.7 人）、
5 月度（3.6 人）と比較して増加傾向にあります。

再復帰のゲストが多数参加

盛岡南家庭教会（盛岡市）では、城山基台が毎月 2 ～
3 回、基台長の自宅で地域集会を開催してきました。

集会には、各自が食べ物を 1 品持ち寄って参加し、近
況報告などをしながら有意義な時間を過ごします。仕事
のため普段はあまり教会に行けないある食口は「地域集
会に参加し、食口と交流できて力を貰いました」と述べ
ています。

一方、教会長が炎天下に基台長の自宅周辺の草刈りを行
い、留守だった隣の家の分まで草刈りをしたところ、
その隣人が夜にお礼に訪ねて来しました。基台長が「家庭
連合の教会長さんがやってくれました」と証したと
ころ、現役の警察官である隣人は「教会長さんにお礼
を言っておいてください」と言って、果物の差し入れを
してくれました。このように家庭連合を明かしながら、
地域で奉仕活動なども行っています。

盛岡家庭教会（盛岡市）の山岸基台は、定期的な家庭
集会のほか、書写会やファミリー集会など、地域の食口
が集まりやすいように工夫し、再復帰のメンバーにも積
極的に声をかけています。

最近では、日曜礼拝に参加できなかった食口が家庭書
写会に多く集まるようになり、当初は 4 人ほどだった参
加者が、最近では 10 人くらいになっています。特に再
復帰のゲストの参加率が高いため、他の基台の刺激にも
なっています。

また、日中は参加できない食口のため、家族で参加で
きる夜のファミリー集会を企画。毎回 4 ～ 7 家庭が集
まり、教会に反対している夫も参加しています。参加者

からは「気兼ねなく本音トークができて楽しい」「家族
で集まることができ、壮年たちが復興している」といっ
た感想が寄せられています。

そのほか、盛岡家庭教会の中野基台は 6 月 23 日、盛
岡市内の会場で「家庭力アップ講座」を開き、新規ゲス
ト 5 人を含む 16 人が集まりました。

新規の参加者 A さんは講座にとっても感動し、「講座の
内容を一人でも多くの人に聞かせてあげたい。私は人を
集めるのが得意なので人を連れてきます」と話していま
した。

そんな A さんの「すぐにでも家庭力アップ講座を開
いてほしい」との強い要望を受け、当初の 7 月 20 日か
ら同 7 日に前倒して講座を開催。A さん自身は実際に
新規のゲスト 2 人を連れて参加しました。人間関係の輪
が大きく広がる運勢を感じさせるエピソードです。

基盤拡大に向けて様々な取り組み

宋総会長が強調される「ブランドの明確化」と「社会
への価値提供」を念頭におきながら、岩手教区ではブラ
イダルや家庭力アップ講座のほか、付き合いの薄い隣近
所の清掃や草刈り、一人暮らしの高齢者の買い物支援な
どの奉仕活動にも取り組んでいます。

そのように“為に生きる”精神を社会に発信しながら、
岩手教区は「核心会員」「賛同会員」の拡大に勝利して
8430 人の会員を獲得し、必ずや岩手教区に真のお母様
をお迎えし、1 万名大会を開催していきたいと思ひます。



盛岡家庭教会・中野基台の「家庭力アップ講座」の参加者

家庭連合の新時代、心情共同体の定着を

京都教区で「合同日曜礼拝」

京都教区合同日曜礼拝
5 年 6 月 8 日（2017 年 7 月 30 日） 京都



宋総会長



説教に耳を傾ける参加者



コーラス隊による讃美

7 月 30 日、宋龍天総会長を 2 年ぶりに京都教区に迎
えて「合同日曜礼拝」が行われ、教会員およそ 280 人
が参加しました。

北都家庭教会のコーラス隊と京都大学 CARP メン
バーによる讃美などの後、李永植京都教区長が挨拶し、
「天の運勢を相続し、7 月度の勝利を教区全体一つに成
て成し遂げましょう」と呼び掛けました。

宋龍天総会長は説教の冒頭、天一国經典『天聖經』の
一節を訓読したうえで、「真の父母様の中で私たちは一
つです。孝情の涙で宇宙聖和 5 周年を希望的に迎えま
しょう」と呼び掛け、真の父母様と同時代に生き、共に
み旨を歩むことができる価値を強調しました。

また、「今の世の中の宗教団体には希望がありません。
青年たちがいないからです。私たちが一番栄える時代、
私たちを通して世界が変わる時代を迎えました。皆さん
が新時代の勝利の主役になってください。真の父母様の
運勢圏があるが故にそれが可能なのです」と力強く語り
ました。

最後に、宋総会長は「真の愛を実践し、京都教区・教
会が“心情共同体”になってほしいと思ひます。かつて
京都は日本全体を導いた中心地でした。天の驚くべき恩
恵と祝福の中で、京都教区の食口たちが新しい意識、新
しい信仰姿勢を持って、天の願う京都、日本の中心であ
る京都となり、救国救世基盤造成の先頭に立ってくださ

い」と食口たちを激励しました。

説教の後、宋総会長は「私が歌を歌いましょう」と言っ
て、「ウリヌン・ハナダ（私たちは一つ）」の歌を全体の
前で披露。食口たちの心が一つとなり、VISION2020
の勝利に向けて、孝情の心情を抱いて再出発する場とな
りました。

【参加者の感想】

■「原理は簡単ですよ」と言われたことが心に残り
ました。原理を学ぶことによって真の父母様の偉大
さを知り、摂理を悟るようになってお聞きし、改め
てみ言を生命視することの重要性、自分自身の意識
を変えることの重要性を感じ、決意することが出来
ました。（京都伏見教会 T・K さん）

■み言が終ってからの宋総会長の歌が印象的でした。
その場に真のお父様がおられ、真のお母様のご
心情と共に、「一つになる」とはどういうことか、
心にしみ込んできました。また、私たちが「神様の
娘・息子だ」と自信をもって宣布することで、サタン
が讒訴できず、堂々と歩むことができると心情を込
めて語って下さったことがありがたかったです。（北
山家庭教会 N・T さん）

勇気を持って氏族伝道に邁進しよう

徳野会長が茨城、青森教区を巡回



7月末から8月初めにかけて、徳野英治会長は茨城、青森両教区を巡回し、集まった多くの教会員に“時”のメッセージを贈り、激励しました。その中から、今回は茨城教区水戸家庭教会の特別集会の様子を紹介します。



120日路程の最後の40日出発する7月29日、水戸家庭教会に初めて徳野英治会長を迎え、特別集会が行われ、たくさんの教会員が集まりました。

代表報告祈祷の後、中高生が心を込めて合唱を行い、礼拝堂はとても暖かい雰囲気になりました。

鄭日權・第3地区長の心情的な挨拶に続き、満場の拍手の中で徳野会長が登壇しました。

徳野会長はメッセージの中で、7月15日に真のお母様をメインスピーカーとしてお迎えして米ニューヨークのマディソン・スクエア・ガーデンで開催された超宗教フェスティバルの大成功に言及。「真のお父様がとても心配されていた米国において、お母様が再出発されたとても意義深い大会でした」と説明しました。



①講話を行う徳野会長（水戸家庭教会）
②特別集会の参加者（同）
③特別記念礼拝の参加者全員と握手をする徳野会長（7月29日、土浦家庭教会）

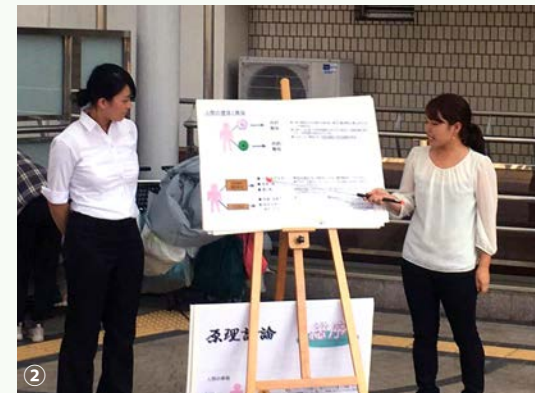
また、徳野会長は「いかに素晴らしい家庭を創るか、いかに天の血統を相続するかを考えなければなりません」と述べ、神氏族メシヤの使命について強調。さらに、自らの同窓会からの伝道の証しを披露しながら、「勇気をもって氏族伝道に取り組んでください。お母様は12双の先輩家庭に対し、『ワラー本の条件でも立てた上で、地上生活を終えるように』とのみ言をくださいました」と語り、地上生活の重要性を訴えました。

最後に、真のお母様をお迎えして1万名大会を開催するため具体的な取り組みを進めている鳥取教区について触れた上で、「茨城教区でもお母様をお迎えしましょう」と決意を促し、集まった教会員に勇気と希望を届けました。

参加者からは「（徳野会長のメッセージの中で）真の父母様を色々な場面で感じ、特にお父様が聖和されて以降のお母様の強さを実感し、涙が出ました。また、徳野会長ご自身が伝道された証しに勇気づけられ、一歩前に前進するためのパワーを頂きました」などの感想が寄せられました。

「第四期天一国青年宣教師」が 国内伝道 40 日路程を終了

新たな経験を積んで VISION2020 勝利のため再出発



①最終報告会および出発式で
②路上で原理講義を行う宣教師（東京・八王子）
③伝道対象者に原理講義をする宣教師（東京・荒川）
④街頭伝道を行う宣教師（横浜）

海外宣教を終えた「第四期天一国青年宣教師」のうち今年6月に帰国したメンバーを中心とした37人が、「国内伝道40日路程」（6月18日～7月27日）を歩んだ後、7月28日に東京・渋谷の松濤本部で最終報告会および出発式に参加しました。

国内伝道の拠点となったのは、首都圏を中心とした9カ所（孝成、杉並、武蔵野、八王子、足立、荒川、大泉、横浜、北九州の各家庭教会）で、伝道目標は全体70コース、個人3コースを掲げて出発しました。

海外で伝道し、訓練されてきた宣教師たちにとっても、日本での伝道はまた一つ違った体験です。日本では海外以上に宗教に対する不信感や偏見を持つ人が多く、人間関係を築く上でも“壁”がある傾向があります。しかし、各任地の責任者や食口とともに歩む中で、海外宣教に匹敵するほどの貴い経験をすることができたという証しが、宣教師から数多く聞かれました。

40日路程の半ばの7月7日、徳野会長を迎えて松濤

本部で中間報告会（決断式）が行われました。徳野会長は、自身が一番投入して導いてきた霊の子の証しをしながら、「伝道の味を知ってほしい」と訴えました。

28日の最終報告会・出発式では、田中富広副会長が、①生涯伝道師②孝情③時④原理的歩み⑤第四期生の絆——の5点を踏まえてメッセージを贈りました。昼食時には、李成萬本部長が駆け付け、全員の報告をすべて聞きながら、宣教師たちを激励。その場で撮った写真をすぐに真のお母様へ送っていました。

外的には、目標だった70コースを大きく越えて83コースを勝利。個人としては、6コースを勝利した宣教師が男女各1人いました。

第四期天一国青年宣教師は、すべての宣教プログラムを終えて所属教会に戻り、各々がVISION2020の勝利、神氏族メシヤ勝利と救国救世基盤の造成に向けて再出発しました。

第5地区が全教会をインターネットで結んで「特別礼拝」

天宙聖和5周年までの「120日路程」が残り30日となった8月6日、東京・高田馬場の新宿家庭教会に宋龍天総会長を迎え、「120日路程完全勝利の為の第5地区特別礼拝」が行われました。特別礼拝の様子は第5地区（東京）の全教会にインターネット中継。宋総会長から「第5地区が勝利してこそ、日本が、そして世界が勝利する！」との激励の言葉を受け、参加した食口たちは金満辰地区長を中心として、120日路程の完全勝利を決意して再出発しました。



礼拝後に全体で記念撮影

特別礼拝で、宋総会長は「真の父母様の様の中で、私たちは一つだ」をテーマに説教を行い、最初に120日路程の4つの心構えや120日路程の目標について再確認。また、信仰の中心として『原理講論』、真の父母様の実体路程、み言の大切さを強調した上で、短い時間の中で統一原理と真の父母様の実体路程の講義を行いました。

参加者は、信仰の中心は真の父母様の価値を知ることだと再認識させられる貴重な時間となりました。



メッセージを語る宋総会長

南東京教区で「天一国主人自己牧会プログラム」

南東京教区は8月5日、東京・渋谷の松濤本部で「天一国主人自己牧会プログラム」の1DAYを開催し、他の教区からの20人を含む184人が参加しました。

1DAYでは、堀正一教区長の挨拶や杉田善忠・孝成教会長の講義、教会復興の証しなどが行われ、参加者たちは時間を忘れて熱心に講義等を聴いていました。

南東京教区では「わくわくセミナー」を通して青年伝道が伸びてきていますが、教会内では「自己牧

会プログラム」という名称で、第一伝道すなわち自己伝道を主眼において展開し、「天宙主管の前に自己を主管せよ」という真の父母様のみ言を「良心との対話」を通じて喜びをもって実践・体感している教会員が増えています。親子や夫婦などの家庭問題の解決や祝福伝道などのベースにもなっており、今回の1DAYの参加者たちは、新しい家庭連合の文化に喜びと希望を抱いていました。



講義を行う杉田善忠教会長



熱心に講義を聴く参加者

愛媛教区で「第2回 神氏族メシヤ活動報告会」

7月29日、愛媛教区松山家庭教会で「第2回愛媛教区神氏族メシヤ活動報告会」が北谷真雄第10地区長を迎えて開催され、33人の「地区認定家庭」が参加しました。

報告会では、6月度の歩みと実績が報告された後、活発に活動している家庭の証しが行われました。

脳梗塞のため右半身不随になったある婦人食口は、デイサービスで真の父母様を証ししようと決意し、出会う人々に真のお父様の自叙伝を配り、手紙や絵手紙、メールなどを送って伝道活動を推進。デイサービスの関係者などから「何故そんなに笑顔で明るい？」と

聞かれ、「愛の伝道師」と呼ばれていることが紹介されました。

最後に、北谷地区長が激励のメッセージを贈り、認定家庭教会の看板を伝授。参加者全体で伝道勝利を決意していました。



活動報告会の参加者



北谷真雄地区長

高知教区でファミリー礼拝

高知教区は8月6日、高知市内の会場でファミリー礼拝を行い、新規45人、再復帰6人を合わせて490人が集まりました。

二世4姉妹の歌と青年部のダンス、天一国青年宣教師の活動報告、来賓の挨拶に続き、石尾豪志教区長が「神の愛は父母の愛」というタイトルで説教を行いました。

礼拝後は、参加者全員にみ言のメッセージを入れた飲み物をプレゼント。台風が近づいていましたが、雨が降る前に無事に全てのプログラムを終了することができました。



青年部のダンス



石尾豪志教区長

北広島・北家庭教会が小学生低学年向けセミナー

7月31日、北広島教区北家庭教会は、広島市の緑豊かな山あいで小学生低学年向けのセミナーを行い、12人が参加しました。高学年の5人もスタッフとして講義の司会進行や、昼食の流しそうめんの食材準備を手伝いました。

子供たちは、「創造原理」の講義を通して一人ひとりの価値について学んだ後、竹を使った流しそうめんの器作りとお箸作りに挑戦。自然の中でたくさんの経験をしながら、皆が笑顔に。終わった後は、「楽しかった」「流しそうめんがおいしかった」などの喜びの感想を話していました。



流しそうめん
食べる子供たち



全体で記念撮影